

通し番号	4935
------	------

分類番号	30-06-13-01
------	-------------

<p>土壌診断結果からみた県内農耕地土壌の化学性の現状</p>	
<p>[要約]</p> <p>県内の土壌診断データを過去のデータと比較したところ、一部作目のカリで低下傾向が認められるが、施設土壌の石灰、苦土が上昇傾向に、リン酸は高止まり状態にあり、リン酸や塩基を中心に依然として養分過剰の状態が継続している。このため、今後もリン酸等の減肥を中心とした土壌診断に基づく施肥指導の徹底が求められる。</p>	
<p>神奈川県農業技術センター・生産環境部</p>	<p>連絡先 0463-58-0333</p>

[背景・ねらい]

本県では、2007年に過去30年間の土壌診断データの解析が行われている。本試験では、その後、近年、約10年間の土壌診断データを県内の土壌分析機関より収集、解析し、近年の県内農耕地土壌の化学性変化の把握を行い、今後の土づくり推進のための資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 各作物の土壌診断データを5か年ごとにとりまとめ、過去のデータと平均値で比較し、経時的変化を検討した。
- 2 施設野菜（トマト、キュウリ、イチゴ）、施設花き（カーネーション、スイートピー、バラ）の石灰、苦土は全体的に上昇傾向にあり、基準値を超過している（図1, 2）。最近5か年のデータでは、石灰で90%、苦土で83%が基準値を超過している。
- 3 施設野菜、施設花きのカリでは、キュウリ、カーネーションなどで低下傾向にあるが、基準値を超過するものが多く、依然として高い状態にある（図3）。最近5か年のデータでは、23%が上限値を超過している。
- 4 リン酸は、全般的に高い傾向にあり、特に施設のバラ、キュウリ、カーネーションで7割以上が基準値を上回り、高い傾向にある（図4）。最近5か年のデータでは、70%が基準値を超過している。
- 5 普通作、野菜作は、pH、塩基類が高い傾向にあり、石灰や苦土で、基準値を超過するものの割合が多い（データ未掲載）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 土壌の養分状態を適正に維持するためには、土壌診断結果に基づき、適切な土壌改良を実施することが必要である。
- 2 石灰が高い土壌では、鶏糞などの石灰の高い資材の使用は控える。
- 3 2006年までの土壌診断の解析結果については、以下の資料に掲載されている。

参考：藤原俊六郎、岡本保：土壌診断結果からみた県内農耕地30年間の土壌化学性の推移
 神奈川農技セ研報 150 1-10 (2008)

[具体的データ]

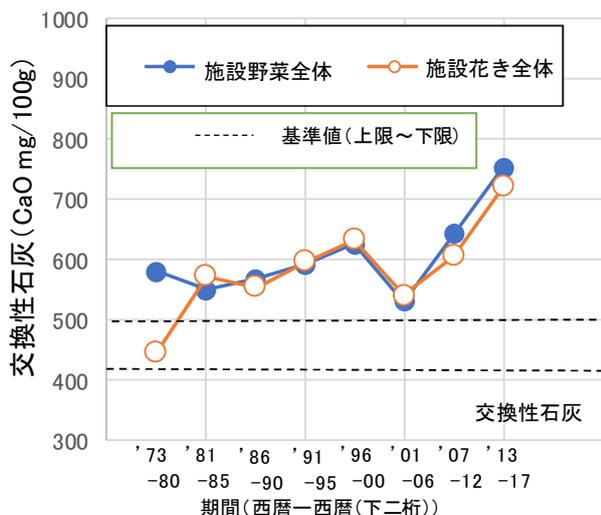


図1 施設土壌での交換性石灰の推移

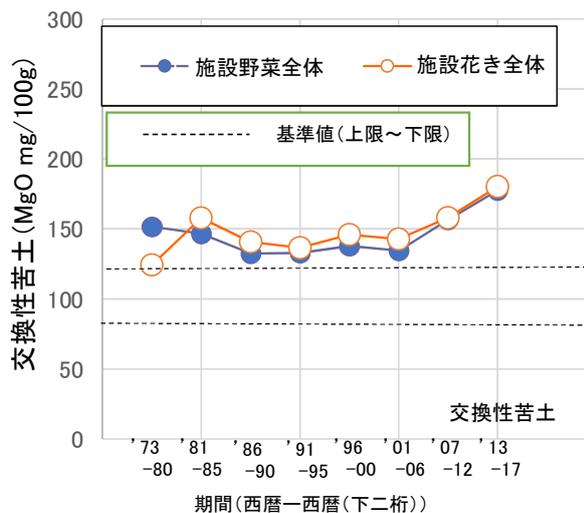


図2 施設土壌での交換性苦土の推移

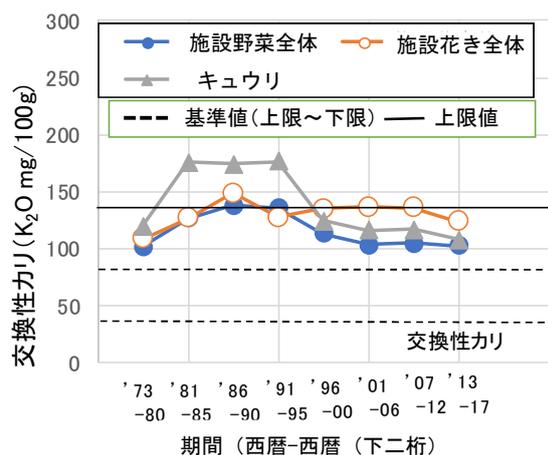


図3 施設土壌での交換性カリの推移

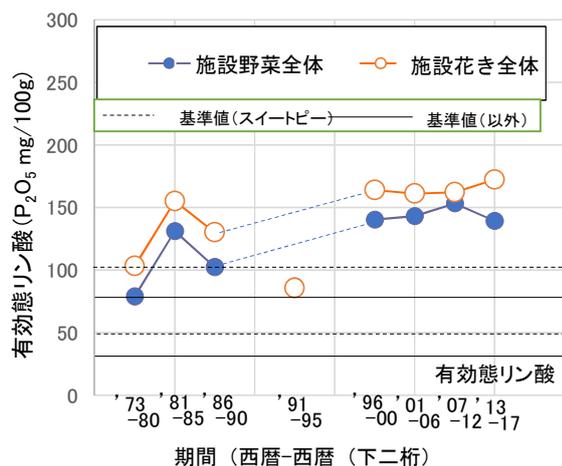


図4 施設土壌での有効態リン酸の推移

注1) 交換性塩基における土壌診断基準値は、CEC30の時の値を算出し、記載した。

注2) 1995年までの分析方法ではリン酸は、200mg/100gまでしか測定できなかったため、平均値が低下している。

[資料名] 平成30年度試験研究成績書 (生産環境・土壌環境)

[研究課題名] 適正施肥のための土壌環境モニタリング 地力保全対策診断調査

[研究期間] 平成30年度

[研究者担当名] 竹本 稔・上山紀代美